エドワード・W・サイード著「文化と抵抗－文化は闘う手段である－」

ちくま学芸文庫、筑摩書房 2008 年 3 月 10 日刊を読む

Q　抵抗運動において文化がはたせる役割とはなんですか？

A　1．格好の例としてパレスチナの状況をとりあげてみましょう。パレスチナ人のアイデンティティを形成し維持する過程で不可欠な一部となった文化表現の集合体が存在します。たとえばそれはパレスチナ映画であり、パレスチナ演劇であり、パレスチナ詩であり、パレスチナ文学一般であるのです。パレスチナの批評言説や政治言説もこれに加わります。政治的アイデンティティがたえず脅かされている場合には、文化は消滅と忘却に抵抗して戦う手段となります。文化は抹消削除に抵抗する記憶形式です。この点で、文化はこのうえなく重要であるとわたしは考えます。

2．しかし文化言説には別の次元も存在します――分析する力、権威筋からの紋切り型表現を鼻であしらい、公然たる嘘を見抜いてそれを正す力があります。権威への問いかけ、別の選択肢の探求もあります。これらもまた文化抵抗のための武器の一部です。

P.220

[コメント]

芸術家は感性の世界から現実社会を見る。そのため、ものごとがはっきり見え、その表現手段として自分の作品が出てくることが多いのだと私は考える。文化と抵抗。マドリッドの国立ソフィア王妃芸術センターにあるピカソのゲルニカを見たときも同じことを感じた。

－ 2010 年 7 月 23 日林　明夫記－